

一般社団法人

かんきょうデザインプロジェクト

# 2015年度 活動報告書

---

第2期

2016/03/31

<http://kankyo-design.org/>

## 目 次

1. 総 括
2. リサイクル施設でエコワークショップ
3. かんきょうセミナー
4. かんきょう「組写」作品展
5. かんきょう「組写」フォトコンテスト
6. 出前講師
7. かんきょう文化祭
8. ご支援いただいたみなさま

(一社) かんきょうデザインプロジェクト 行動指針

「環境を考えるとすることは 次の人のことを考える力をつけるということ」

# 1. 総括

2015年度は、これまでの活動を継続・実施しながら、新たな広報スタイルやプログラム制作の着手、実行できるよう、視野を広げ思考を深めことを目的に、クラウドファンディング(※)に取り組むなど、積極的に未だ見ぬ分野へと活動を展開した1年となりました。

クラウドファンディングは、[かんきょう「組写」フォトコンテスト]終了後の2015年11月からスタート。新たなプログラム構築と私たちの活動にアドバイス、サポートして下さる団体との協力関係の構築に努めました。

手探り、はじめての経験が多い1年でしたが新たな視点を得るなど、充実した活動を展開できたと考えています。

日常活動では速報性を重視し、当法人ウェブサイトやフェイスブック等のSNSを通して、活動の事前PR及び報告を丁寧に行いました。

他方、フォトコンテストの応募数や各プログラムの参加者数は、目標まであと一歩、二歩という状況が残り、引き続き、活路と事業内容について再考を強く求められる年でもありました。

この1年で得た知識や知恵がより具体的な成果となるよう、これからも「環境」や「ごみ」を題材に創造力を養う、実際に体感するプログラムを充実させ、中高生はもちろん、様々な年代の方々にとっても「ごみ」や「環境問題」を考えることはクリエイティブで面白いという感想をもってもらえる機会を提供してまいります。

今年度もご協力とご理解をいただきましたことに心から感謝を申し上げながら、報告書にお目通しくだされば嬉しく存じます。

今後とも当法人の活動にご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2016年3月31日

(一社)かんきょうデザインプロジェクト  
代表理事 武松 昭 男

※クラウドファンディング

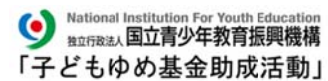
自らのアイデアをインターネット上でプレゼンテーションすることで、アイデアを実現させる資金を不特定多数の方から調達する事業手法のこと。

## 2. リサイクル施設でエコワークショップ



インターネットやテレビを見ることでは得られない廃棄物処理及び選別施設の「現場」を体感し、自分が出す「ごみ」の処理方法やリユース、リサイクルのプロセスを学びます。そして、現場の様子をカメラに記録することで、自分がどういうところに関心があるかを明確にして、日常の身近な課題に取り組みやすくするワークショップです。

今年度は、独立行政法人国立青少年教育振興機構様より助成を頂き、「子どもゆめ基金助成活動」として開催いたしました。



### 【 概 要 】

■ 第1回 2015年7月25日(土) 11時~12時30分

会 場 (有)ビッグサービス 横浜市緑区青砥町 339-3  
古紙の選別圧縮施設、缶・びん・ペットボトルの選別・圧縮・破碎処理、及び発泡スチロールを溶かす設備を保有し、廃棄物の資源化業務を行っている。

参加者 中高校生5名 / 大人2名 / フォト指導者(※)1名



## 第1回 参加者アンケート

- ① 工場を視察して、どう思いましたか。
- ・自分たちが出した資源物が、出した後も環境に気をつけて処理されているのがすごかった。(中2男)
  - ・ごみを扱うことにたくさんの工夫が必要だと思いました。(中3女)
  - ・分別を細かく行ってきちんと分けられている事、私の住んでいる町ではできないと感じました。(高1女)
  - ・分別をちゃんとしようと思った。(高1女)
- ② 一番印象に残ったことは、なんですか。
- ・台貫が大きかったこと。(中2男)
  - ・鉄板の上(台貫)に車を乗せると重さが分かる。(高1女)
  - ・ごみの量です、一種一種が多いのはとても驚きました。(中3女)
  - ・発泡スチロールがあんなに堅くなるとは思わなかった。(高1女)
- ③ あなたが、気にしている 又は 気になる環境問題はどんなことですか
- ・古紙のリサイクル。(中2男)
  - ・森林の減少について気にしています。(中3女)
  - ・水の汚染問題。(高1女)
- ④ 最後に、どうすればもっと環境がよくなると思いますか。あなたの考えは?
- ・宣伝をもっとして、真剣に考えてもらう。(中2男)
  - ・ごみを出さないようにする。(中3女)
  - ・ムダに物を多くつぐらない。(高1女)

■ 第2回 2015年8月5日(水) 11時~12時30分

会場 横浜市鶴見資源選別センター 横浜市鶴見区末広町 1-15-1  
横浜市の家庭から出されたスチール缶とアルミ缶、びん、ペットボトルを選別し、資源として再利用するための処理や粗大ごみを砕く設備を保有する施設。

参加者 中高生4名 / 大人2名 / フォト指導者1名



第2回 参加者アンケート

- ① 工場を視察して、どう思いましたか。
- ・自分たちの知らないところで、ここまで大がかりにゴミの処理が行われているのか、と思った。職員の人たちのゴミの分別が早くて驚いた。(高1男)
  - ・資源ごみがどのように回収され、出荷されていくことが良くわかりました。(保護者)
  - ・缶、びんを手選別している方々が多く働いていることに驚きました。私たちが生活して出したゴミがあんなに多いなんて知りませんでした。(高3女)
  - ・普段は見ることのできないゴミの姿を見ることができて、とても面白かった。また、ラベルを外し、キャップを取って洗っているペットボトルが少なかったことに、とても驚きました。(中2女)
  - ・他のゴミがペットボトルと一緒に出ていて、困るのではないかと思います。工場内でもゴミの分別のための機器がたくさんあり、驚きました。(中1男)

② 番印象に残ったことは、なんですか。

- ・スチール缶を磁石でくっつけてアルミ缶を分けるという発想が凄いと思った。  
(高1男)
- ・ゴミの分別・回収にこんなに多くの人が携わっていたことに驚きました。  
私たちが地域と協力してもっと細かく分別をしていかななくてはいけないと思いました。(高3女)
- ・細かい選別を「手」で行っているというのが凄いと思いました。(中2女)
- ・ペットボトル、缶、びんの中に、はさみやコインが混入していて驚いた。  
(中1男)

③ あなたが、気にしている 又は 気になる環境問題はどんなことですか。

- ・地球温暖化。最近40度近い気温が続いているので気になっている。  
(高1男)
- ・自動車やバイクから出る排気ガスが地球温暖化につながっているという事。  
(高3女)
- ・地球温暖化による北極などの氷の減少。(中1男)

④ 最後に、どうすればもっと環境がよくなると思いますか。あなたの考えは？

- ・一人一人がリサイクルを心がけて分別して良い状態でゴミを出す。(高1男)
- ・日常で行っていることを、もう一度良く見直しをしてゴミの排出を減らしていけたらと思った。(高3女)
- ・私は小学校5年・6年とリサイクル委員をしていてリサイクルには関わりかが多かったのですが、中学になって機会が減ったので、このような事にもっと目を向けたいです。(中2女)



### ■ 第3回 2015年9月5日(土) 11時~12時30分

会場 横浜市資源リサイクル事業協同組合 横浜市神奈川区山内町 13  
古紙の選別圧縮施設を保有し、家庭から集められた古紙や古布を海外に輸出するため厳しく品質管理を行って「横浜ブランドの資源製品」をつくっている施設。

参加者 中高生 10名 / 大人 2名 / フォト指導者 1名



#### 第3回 参加者アンケート

##### ① 工場を視察して、どう思いましたか。

- ・分別をしていない人がいるために、紙だけの選別の所にペットボトルが、混ざってくる。そういう人たちにしっかりと分別を伝えていって少しでも働く人たちの負担を減らしていくことが重要だと思った。(高2男)
- ・自分たちの出したものが、あのように有効に活用されているのが嬉しかった。(中1男)
- ・洋服がこんな風にリサイクルされているとは思いませんでした。自分たちが出したダンボールや紙がちゃんと分別されているか、出す前に確認した方が良いと改めて思いました。(高2女)
- ・古紙のブロックが思ったより大きくてびっくりしました。(中3女)

##### ② 一番印象に残ったことは、なんですか。

- ・ビニール等を分離する機械の前に分別したときに出てきたと思われるペットボトル等がたくさんあったのが印象的だった。(高2男)
- ・牛乳パックからトイレットペーパーをつくる動画。(中3女)
- ・パッカー車にとってもびっくりしました。一度にあんなにたくさんの紙を積むとは思っていませんでした。(中3女)



③ あなたが、気にしている 又は 気になる環境問題はどんなことですか。

- ・車の排気ガス等による大気汚染。(高2男)
- ・光化学スモッグ、川の汚染、地球温暖化。(中3男)
- ・きちんと分別する人が多くなってきましたが、今よりもっと良くするためには、どうすればいいのかと思っています。(高2女)
- ・森林問題。(中3女)

③ 最後に、どうすればもっと環境がよくなると思いますか。あなたの考えは？

- ・このようなワークショップにたくさんの人に参加してもらって環境について意識してもらおう。(中2女)
- ・日本だけのリサイクルではなく世界中で3Rを進めていかないと、地球にやさしいと100%言いきることができないと分かった。(高2男)
- ・この地球に生かしてもらっていることを忘れない。(中1男)
- ・人の意識を変える。もっと言葉を重くすればいいと思う、  
ex:ポイ捨て⇒汚染など。(中3男)
- ・使えるものは最後まで使う。古くなっても壊れるまで使う。(中3女)

※フォト指導者

昨年に引き続き、東京総合写真専門学校様で写真を学ぶ生徒の方に写真撮影のサポートをしていただきました。

エコワークショップの会場は、巨大なコンクリートの塊のような建物の中に機械設備があり、写真を撮るには暗すぎて露出調整が難しい場所もあります。他方、再生資源物として出荷を待つ古紙やペットボトル、空き缶などは屋外に保管されているなど、写真撮影の条件がおおきく異なります。

折角の現場体験、フォトコンテストの作品として、また、夏休みの自由研究の資料として使えるように、2014年度からワークショップに参加する中高生のお兄さん、お姉さんのような存在にあたる専門学校生のみなさんに協力をお願いしています。

今回も丁寧にサポートしていただきましたことを報告させていただきます。

写真で生きるための知識、技術、哲学・教養を学べる専門学校

東京総合写真専門学校 <http://tcp.ac.jp/>

### 3. かんきょうセミナー



#### 【概要】

身近な環境問題への関心や理解を深めていただけるように、分かりやすく、環境にやさしい生活を考えるきっかけとなるセミナーです。

市民にみなさまには、日常生活にあふれる資源をロスすることなく、将来を担う若い世代に引き継ぐ手立てを見直す機会に、環境関連事業者のみなさまにはこれからの事業展開の方向を探る機会として活用いただけるプログラムとして企画、開催をいたしました。

- セミナータイトル：「かんきょうセミナー」
- 開催日：2015年10月27日(火)
- 開催時間：18時30分～20時30分
- 会場：横浜市開港記念会館 2階9号室（横浜市中区本町1-6）
- 参加費：1,000円（中高校生は受付にて生徒証の提示で無料）

◇ 講師：NPO法人 未来舎 代表理事 杉本裕明氏

◇ プロフィール：

元朝日新聞記者で、環境(廃棄物)問題を25年間追いつけたジャーナリスト。1954年生まれ。早稲田大学商学部卒。1980年より2014年まで朝日新聞記者。廃棄物、自然保護、環境、地球温暖化、ダム・道路問題等環境問題全般を取材。環境省・国土交通省・自治体の動向にも詳しい。現在はフリージャーナリスト。NPO法人未来舎代表。著書に「環境省の大罪」「ゴミ分別の異常な世界(共著)」「廃棄物列島・日本(共著)」「赤い土 フェロシルト なぜ企業犯罪は繰り返されたのか」等 多数。

- 参加人数：45名



ヨコハマ・エコ・スクール(Y E S)脱温暖化行動講座開催補助金  
制度活用セミナー

## ■ 講演内容

### 1. データは語る（環境省発行の環境白書から読み取れること）

- リサイクル率は平成 19 年以降上がっていない  
リサイクル率を上げる為には、予算がかかるので行政は一時期より積極的にリサイクルを進めなくなっている。
- ごみが足りないという事態が起きている  
ごみの焼却量は 2001 年がピーク。全国に約 1170 ある焼却施設の焼却能力がごみの焼却量を越えてしまった。  
施設の数が減っているが焼却能力はあまり変わらない。

### 2. 大量生産・大量消費・大量廃棄の使い捨て社会から 3R へ

- 税金と技術の導入による「ごみ処理」⇒ 循環型社会へ  
ごみはもともと公衆衛生問題で、その解決策として焼却、埋め立て処理を推進していた。1990 年代後半に大量生産・大量消費の「使い捨て時代」が到来し、プラスチックの増加による有害化学物質が発生した。その後は廃棄物ではなく循環資源という考え方に変わってきた。

### 3. 分別とその後の問題点

- 分別後の可燃・不燃ごみに大量の資源が含まれている。  
(手元分別の限界、抜本的な見直し必要か?)
- 資源物によってリサイクルの法律がばらばら、かつ、処分方法もまちまちで住民にはわかりづらい。

### 4. ドイツなど E U の新しい動き

- 2008 年、E U の廃棄物指令が改正（2020 年まで 50%以上をリサイクル）  
ドイツの都市ごみのリサイクル率は 2012 年 65%。
- 2013 年からドイツでは、家庭ごみの一括収集のモデル事業を開始した。  
(容器包装だけでなく、製品プラスチック、金属類なども一括収集、ソーティングセンターで素材選別、リサイクル率アップを図った)
- E U が重視するのは「資源効率性」  
地球の有限な資源を持続可能な方法で効率的に利用  
→ E U の産業の国際競争力を高めるのが狙い。  
(プラスチックリサイクルの再製品を自動車の部品などに使用。日本の J I S にあたる基準適用。日本の数倍の単価で流通し、高品質化を証明)

## 5. 静脈産業のゆくえ

- 処理技術の多様性と高い技術力、一括管理のノウハウをもつEU、米国に比べ競争力で劣勢。おのずと国内向けに限定になるので、コストが高くなる。
- リサイクル法の下に新たに業界が作られ、既得権優先で新規参入できない状況になっている。(容リ法はプラ発電業者、小型家電の認定事業者を大手がほぼ独占。家電リサイクル法はメーカー以外の事業者は参入不可)。  
良い意味での競争が起きない。
- 保管・選別は民間委託、中間処理の運転・管理も民間に任せる方式が、広がっている。自治体はコスト削減が狙い。
- 「資源」を増やす方策が必要。ドイツと比べ物にならないくらい少ない。  
収集、処理業者にとって資源が増えれば、仕事も増える。



## ■ かんきょうセミナー アンケート (抜粋)

### (1) 全体的な感想

- ・リサイクル全般の取り組みや「歴史」を理解することができました。
- ・最後の方の外国の事例をゆっくり伺いたかった。
- ・日本と外国の対比を聞いたので興味深かった。
- ・日本のリサイクル率が低かったことに驚きました。
- ・本に書けないような取材現場の生の情報も教えてほしかった。
- ・内容が充実したセミナーなので、もう少し時間が欲しかった。
- ・データの詳細より、社会背景・政策の視点から突っ込んだ話が聞きたかった。
- ・主催者のかんきょうデザインプロジェクトのリーフレットに書かれている「環境を考えることは次の人のことを考える力をつけること」のコピーに共感。

### (2) 今後のセミナーで取り上げてほしいテーマ

- ・リサイクルではユニクロのような製品をプロダクトしている方。
- ・エネルギーでは原発に依存しない取り組みをされている方。
- ・小売業の3R事例があればより知りたい。
- ・環境行政を行っている、中央地方の担当者の生の声を聴きたい。
- ・外国人視点での外国の話を知りたい。
- ・RPFについて聴きたい。
- ・脱農薬について。

### (3) 環境問題で危惧していること

- ・ペットボトルなどの石油合成物の生産が増えていること。
- ・環境問題への意識が低下していること。
- ・一般市民には、何ができるのか。

■ その他

セミナーを開催するにあたり、「聴いてみたいこと」として、事前に質問を講師に提出し回答を頂いておりましたので、当日の参考資料として配布いたしました。

(1) 市民の視点から

質： 拡大生産者責任について、各企業の環境配慮の取り組みは以前より増していると感じていますが、まだ不足しているとするならば、それはどのようなことでしょうか。

答： EUの流れを受けた各種リサイクル法の制定で、拡大生産者責任の意識も一歩進むことになりましたが、我が国の環境行政は、市民・行政との三者の「役割分担」が基本です。例えば容器包装でいうと自治体の負担が大きいこと、家電リサイクルなら処理費を廃棄時に払う後払い方式とか、事業者の負担が軽くなるような仕組みになっています。これらの見直しも審議会で事業者が反対し、是正される見込みは今のところありません。企業の環境意識は高まっていますが、リサイクル制度の中での費用負担という点では極めてシビアな対応をしています。

質： ごみの資源と分け方出し方は廃棄物処理法によって自治体ごとに異なっています。市民としてはわかりにくく、参加しにくい仕組みだと考えます。このことについて、国や行政はどのように考えているか知りたい。

答： 廃棄物処理法は市町村にごみ処理の責任を負わせ、その中で取り組んできた歴史的な経緯があります。国が統一的な分別を強制することはできませんが、廃棄物処理法で家庭ごみの処理の基本方針を定め、それにもとづいた「指針」を作っています。分別については自治体を3つの類型にしています。基本となる分別が類型1（自治体の3割が相当）。これに容器プラの分別と小型家電の収集が入ると類型2（5割）、さらに生ごみ・廃食油などバイオマス利用が入ると類型3（1割）に分け、より細かい分別を目指すことを促しています。これは環境省のリサイクル法に従わせようとしたものですがリサイクル法はそれに参加するかどうかは自治体の判断に任せています。

類型2と3は、紙容器のリサイクルもあげていますが、これを採用している自治体はほとんどありません。また指針では「適正な循環的利用・適正な処分方法」として焼却灰の溶融にスラグ化が挙げられています。国の補助金を使った強制的な指導のもと、全国に100以上の溶融施設ができましたが、スラグの利用法がないことやコストが高いことから稼働中止した溶融炉が続発。会計検査院から税金の無駄使いと指摘されました。指針を忠実に守って分別や処理をしても、それが必ずしも環境にいい訳ではないことを示した例です。

2005年の基本方針では、廃プラスチックについて容器包装リサイクル法のもとでリサイクルし、残った製品プラスチックは焼却発電に使うよう示しています。この結果、不燃ごみ扱いしていた大半の自治体が焼却処理に変わりました。

ただ、容器包装リサイクル法によるプラスチックの分別はコストが高いためから採用しない自治体が3割あります。ドイツは焼却、バイオマスなど幾つかのメニューを示し、自治体を選べるようにしています。日本は焼却処理一辺倒で、なお、それを引きずっていると思います。

## (2) 廃棄物、再生資源業界の視点から

質：所謂川下にいるリサイクル事業者にとって、今後、資源物の発生量減少という大きな課題を抱えていくことが予想されます。それは個々の事業者にとって扱ひ量が減少するという一方で、商いの存続に直結します。

中小、零細事業者が多いので、「協業化」等を模索するなど、今後も商いの継続を図るためのヒント、事例などがあたら知りたい。

答：従来は可燃・不燃ごみが減れば、その分、リサイクルされる資源物が増えるという傾向でしたが、リサイクル率の停滞で資源が増えない傾向が生まれています。容器プラスチックでは、きれいなプラスチックで引き渡すと合理化拠出金がもらえるので、資源に回るはずのプラの一部を可燃ごみに回す自治体が多くなっています。(プラごみの回収量が減少しています)

ただし、資源物の量は本来こんなものではないはずで、杉並区の組成調査によると、可燃ごみの2割が紙、4割が生ごみ、1割がプラスチック、1割が繊維と、資源が多数を占めています。

ドイツのようにまず、機械選別を行い、資源を取り出し、その後処理する方式に変えれば「資源」は大幅に増えると思います。

今のリサイクル制度の下に既得権をもった事業者がぶら下がり、大半が現状維持を求め、国も容認しています。せつかくのリサイクルに新しいビジネスが生まれにくい状況です。

一方、ごみが減り、資源が増えないと、収集・運搬業者は影響を受けます。ご指摘の通り、協業化をしているところが多いのではないのでしょうか。自由化の流れの中で自治体の入札による急な切り替えは、事業者に大きな影響を与えますが、独占的な契約や組合との一括契約に不信の目で見られる市民もいます。

何にどれだけのお金がかかっているのか、大半の自治体は公開しておらず、「透明化」の努力も必要ではないのでしょうか。

2008年環境省の「6・19」通知は「市町村自らが行う場合はもとより、市町村以外の者に委託して行わせる場合でも、引き続き市町村が有するものである。また、許可業者に行わせる場合にあっても、市町村が統括的な責任を有するものであり、一般廃棄物処理計画にこれを位置付け、一般廃棄物の適正な処理の継続的かつ安定的な実施が確保されるよう、業の許可の運用を行うことが重要である」。

福井県小浜市の収集運搬業者が同業者の許可更新の取り消しを求めた最高裁判決（2014年1月）は、「（廃棄物処理法では）一廃処理業は、専ら自由競争に委ねる性格の事業とは位置づけられていないものといえる」とし、原告が取り消しを求めることについて原告適格ありとしています。環境省も2014年10月に同様の通知を出し、この判決を添えています。

質：容器包装リサイクル法以降、さまざまな取り組みが行政主導に近い形で進めてこられたと思いますが、現状の国内の環境行政の取り組みをどう評価されますか？

答：原発事故対応に振り回され、既存の環境行政への対応がおろそかになっているように思います。昨年から今年にかけて改正時期にあたる容器包装リサイクル法、家電リサイクル法、食品リサイクル法、自動車リサイクル法の審議が行われましたが、いずれも改正なしに終わりました。



容器包装リサイクル法にいたっては、2014年夏に国民に対しパブリックコメントを求めながら、14年9月で審議が中断されています。

質：今後の国、地方自治体の資源に対する考え方が知りたいです。

リサイクル産業は隙間産業であったからこそ、現在の形態が成立していました。しかし、資源循環が国家的事業となった現在、資源の確保のために様々なルールが作られると予想されます。

答：環境省（厚生省）は昔から「優良業者を育て、静脈産業を大きくしたい」といっていましたが、あまり効果が上がっていません。一方で、規制強化が進み、廃棄物処理法には厳しい欠格要件が設けられました。例えば交通事故を起こし、禁固刑になると業の許可が取り消され、会社は廃業することになります。厳しい規制として有名ですが、改められることはありません。

環境省は、海外に進出させるための検討会を作ったりしましたが、報告書には、EUや米国の巨大会社から仕事を奪えるだけの力がないことが書かれています。

ただ、大手プラントメーカーで最近、海外の会社を吸収する動きもあります。「資源確保」と環境省の「権限強化」のため制定されたのが小型家電リサイクル法。現実には小型家電は約1万トンしか集まらず、事業と成り立つのが疑問視する人も多いのが実態。大手製錬会社も海外に資源を求めています。環境省は、「資源は海外に出さない」という考え方でした。

しかし、国際取引を規制するようなことはできないし、合理的でもないと思います（小型家電リサイクル法の制定過程で、環境省は廃小型家電の輸出規制する条文を入れようとしたのですが、WTO違反が明白となり、法案から条文が削除されました。詳しくは「ルポ につぼんのごみ」参照を）。

私は、何がごみで、何が資源なのかという、きちんとした区分が法律で定められていないところに根本的な問題があると思っています。

たとえば、廃棄物処理法は、まず産業廃棄物として21の品目を挙げ、それ以外は一般廃棄物としています。ごみかどうかの判断は、最高裁の判決に従い「総合判断説」を採用しています。

しかし、実際の判断は自治体にまかされ、人によってごみになったり、そうでなかったりします。判断材料は判断しやすい「有価」で売却されているかどうかで判断されます。

不要品回収業者が、有価で買い取っても運賃をもらって「手元マイナス」になった時点で廃棄物となり、リユース店で買い取られた時点で商品に生まれ変わるという手品のような解釈が、環境省によって行われています。

循環型社会形成推進基本法は、「循環資源」という言葉を使っています（食品リサイクル法でも）。廃棄物等のうち有用なものを指し、循環的利用を求めています。

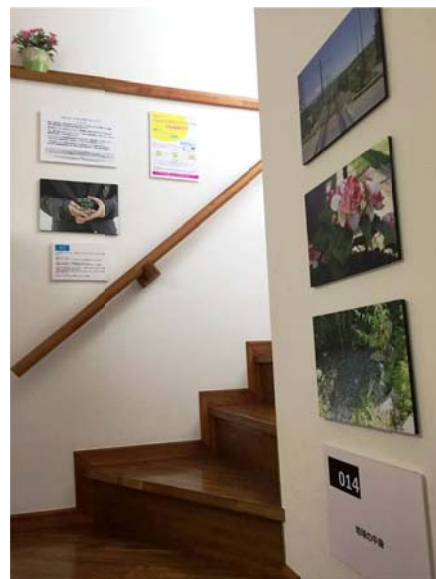
基本法が上位にありながら、廃棄物処理法にこの用語はありません。国の規制や猫の目のように変わる解釈を行う「規制官庁」のもとでは新しいビジネスは生まれにくいと思いますが、EUの「資源循環」の政策が軌道に乗り、産業政策が行われれば、日本もその後を追わざるを得ません。リサイクルがそうだったように。その時に新しい産業が生まれ、「組み換え」が起きるかもしれないと期待しています。

## 4. かんきょう「組写」作品展



かんきょう「組写」フォトコンテストの作品制作の参考に、またファインダーを通して中高生が思い見た環境メッセージを広く一般のみなさまに届け、環境を大切に守り、改善する必要があるれば正していく行動を起こす一助となるよう開催された作品展です。

- 第1回 公開期間 2015年9月18日(金)～9月27日(日)  
会 場 横浜中華街パーキング エントランスホール  
横浜市中区山下町 94 番地
- 第2回 公開期間 2015年10月1日(木)～10月23日(金)  
会 場 中国茶房 悠香房  
鎌倉市扇ヶ谷 4-5-25



- 第3回 公開期間 2016年2月27日(土)、28日(日)  
会 場 横浜大さん橋国際客船ターミナル CIQ プラザ  
横浜市中区海岸通 1-1-4



第3回目の作品展では、2016年度の年間プログラム「かんきょう文化祭」のPRも兼ねて開催いたしました。

## 5. かんきょう「組写」フォトコンテスト 2015



豊かなライフスタイルがいつまでも続くよう、わかりやすく、広く伝わるメッセージとしての写真を中高校生の若い世代から募集し、それらの作品を通して環境啓発活動や人材育成に新たな局面を創出するための写真公募展です。

フォトコンテストといっても写真撮影技術を競うことが目的ではなく、本活動を通じ、ふだん見過ごしてしまっているかもしれない出来事を記録し、行動を起こしていくきっかけとなる情報を創り出していくこと。

そして、一枚の写真のインパクトや芸術的な意味においての作品性よりも、「いかに情報が伝わるか」を大切にし、そして、若い世代への環境啓発を重視するため、審査・投票に「大人の見方」部門と「高校生の視点」「中学生の視点」部門を設け、開催いたしました。

### 【開催概要】

- 公募テーマ 地球もわたしも、気持ちよく暮らすために

- 公募作品

【組 写】 2~3枚の組み合わせ写真 + タイトル (45文字以内)

【メッセージ】 1枚の写真 + メッセージ (400字以内)

- 応募資格

【組 写】 / 【メッセージ】

神奈川県内の高校に在学中または在住の「高校生であること」。  
公立、私立、全日制、通信制、定時制、サポート校などの別は問いません。  
高校生であれば年齢不問。

【メッセージ】

横浜市内の中学校に在学中または在住の「中学生であること」。  
公立、私立、夜間学級、サポート校などの別は問いません。

- 公募期間 2015年8月1日~2015年10月25日

## 【 本選選考会 】

### ■ 開催日

2015年11月22日(日)

選考会(審査/投票) 11:00~18:00

2014年11月23日(祝・月)

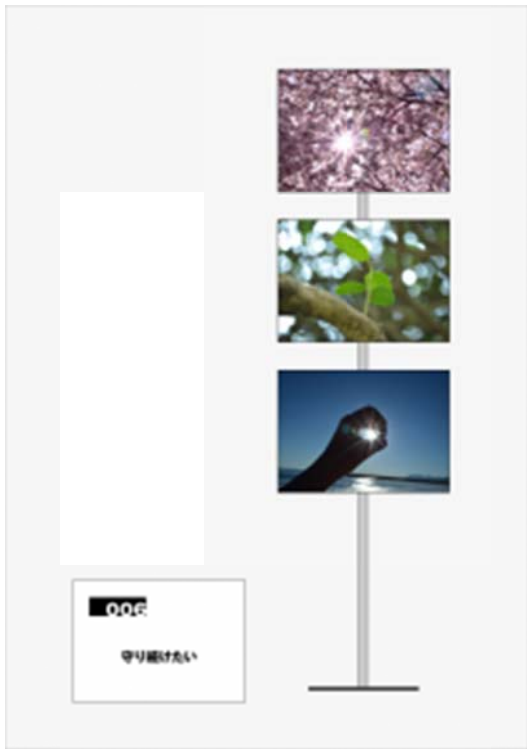
選考会(審査/投票) 11:00~15:00 表彰・講評 15:30~

### ■ 会場

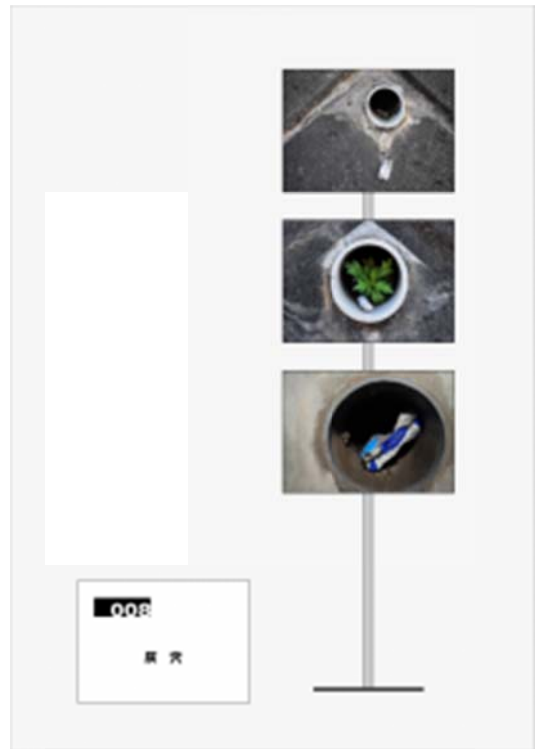
横浜新都市ビル(そごう横浜店9階)市民フロアセンタープラザ  
横浜市西区高島2-18-1

### ■ 投票総数 243



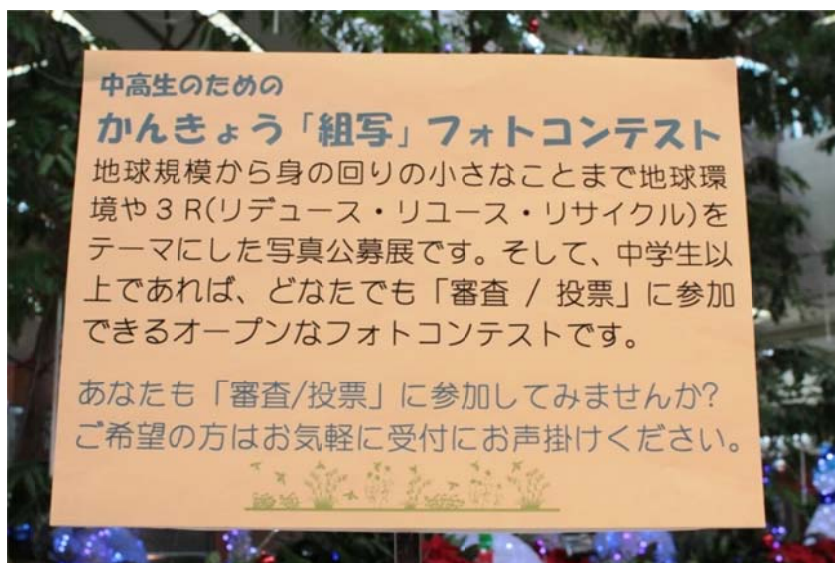


【組写】  
大人の見方部門 グランプリ



【組写】  
高校生の視点部門 グランプリ

詳しくはウェブサイトをご覧ください。その他、入賞作品も掲載しています。  
<http://kankyo-design.or.jp>



【メッセージ】 高校生

高校生の視点部門 / 大人の見方部門 グランプリ ダブル受賞



002

澄んだ空、たくさんのスキ、雪の少し積もった富士山…。秋を感じさせるこの3つの物の美しい調和に思わずシャッターを切った。でも、ふと、こんな美しい景色を20年後、30年後にもまた見る事が出来るのだろうか、と思った。

実際、私が小さかった頃ほどスキを見かけることは少なくなっし、富士山の初冠雪が例年よりも遅いとよく騒がれている。大気汚染、地球温暖化、異常気象、植物の伐採…。これらが1つでも起これば、この景色は見る事が出来ない。この美しい景色を守るということは、心の癒しの場を後世に残せるだけでなく、地球環境を守ることでもあるのだ。

今日、また雪の積もった富士山を見ながら、私の将来の子供も孫も、同じ場所で、あの同じ景色を見たいな、と思った。

【メッセージ】 中学生

中学生の視点部門 グランプリ



004

この袋の中には古布が入っている。その古布はただ捨てるだけではなく、アジア等の国々に売っている。私が見たのはリサイクルセンターだ。古布と言っても十分に着られる、洋服類が入っており、その袋が溢れかえるほど沢山置いている。これ一つが重さかとうてい持ち上げられないくらいの重さである。最近の自分を含め人々は豊かな暮らしに、慣れてしまい使えるものを何の抵抗もなく捨ててしまう。だがこの現象で別の着るものを求めている国々に、渡ると言う意味では相手国のメリットになるであろうと思う。それでも使えるものを捨ててしまうという事は決して良い事ではない。つまり一人一人が意識して再利用と言う考えを持つことで少しずつでも無駄に捨てると言うことが減ると私は思う。

【メッセージ】 中学生

大人の見方部門 グランプリ



009

弟の七五三で着物を着ました。この着物は、おばあちゃん-お母さん-私と受け継がれてきたものです。この着物を着し、おばあちゃんがこの着物を着ていた頃の話を、お母さんが着ていた頃の話を聞くことができました。そうした話を聞く事ができたのも受け継がれてきたものがあつたからです。良いものを大切に最後まで使う、一枚の着物を通してこのことを学びました。大切なものが受け継がれる時、私の心が温かくなっていくことを実感しました。人の気持ちが繋がっていくことを知ると、今まで少し面倒に思っていた地球に対して優しくする気持ち、人に対して優しくしようと思う心の余裕が生まれてくるのだと思いました。



## 【 本選選考会でいただいた作品への感想（抜粋） 】

- 若いみなさんの目に映るものは思ったより「今を大切に」「これを守れるか」というメッセージが強いようですね。  
あなたたちが「昔はよかった」と考える世の中にならないように思ってください。さるメッセージの写真があったら私はホッとしたかも。楽しい時間でした、ありがとう。
- 環境ってごみの問題だけじゃなく、本当に生きていくために必要なものですね。素敵な写真をありがとうございました。来年も楽しみにしています。
- 地球温暖化、ごみ問題等、人間によって引き起こされる問題なのだということに改めて考えさせられました。  
わかりやすく、考えさせられる良い作品でした。
- 環境を良い形で残し、引き継ぐ、そんな心を育む素晴らしいイベントであると思います。それは地球のためと勘違いする人がいますが、人類のためだと強く訴え続けてください。
- かんきょう「組写」フォトコンテストは、単純にごみを捨てる的なお説教調なものではなく、ちょっとひねった・・・たとえば写真は美しいけれど、その裏に潜む危険性を考えさせるとか、がいいと思います。この点、作品の多くはそれらの意味を反映させていると思います。発表では、人が見て思わず足を止めてしまうような「物語性」「社会現象」などが含まれていて、若いみなさんの考える力、表現力が優れていて感心させられました。  
社会人になったとき、「経済性」「効率性」だけに囚われず、純粋に環境保護を考えた「心」を失わずに活躍してください。

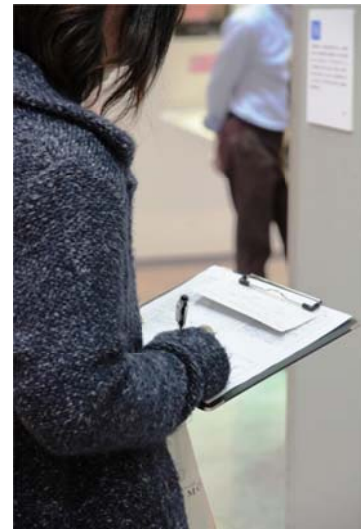


- かんきょう、という広いテーマの中で、中高生が一生懸命考えながら撮った作品だということが伝わってきました。
- 私も写真を撮ってみたいなと思いました。
- ごみがたくさん出るのは個人では限りあることです。包装をもっと考えることでごみは少なくなると思います。贈答品なども、いかに少なくなるように、コンクールでもしたらよいと思う。  
最近の消費者にごみを出さないようにするのは無理だと思います。
- 中学、高校生のみなさんの作品を見て心洗われるような思いです。  
普段見慣れた光景からいろいろなことが感じられるのですね。  
これからの時代を担う若い方たちが、みなさんのようにやさしい気持ちで過ごしてほしいと思いました。
- みなさんの感性、素晴らしいです。疑問を持つこと、それも大切なこと。  
問題提起して訴えかけることも大切だと思います。
- 日頃、何気なく捨てているごみについて考えさせられました。
- 当たり前だと思っていたことが  
次の日には当たり前ではなくなっていることが  
当然の世の中。  
少なくとも環境問題やリサイクルの部分では  
不変であってほしいと思います。
- 当たり前の毎日に、  
気づかなくなっていることを  
少し考えさせられた、今日でした。



- 無駄なものは何もない。  
1つの写真を見て、どんな思いで撮り、物言わずして、それを感じる事が  
できるのは素晴らしいと思います。

- 改めて、環境・ごみ問題について考えるきっかけとなりました。フラッと立ち寄ってよかったです。
- 一枚の写真から伝わるメッセージに感心したり、納得したり、興味深く拝見しました。若い感性のこれからの環境の未来に期待しています。
- 他の方の自然に対する思いを写真と共に知ることができて良かったです。
- 中学生のメッセージの展示が一番面白かったです。同じゴミの写真でも個性が出ていましたね。
- どれも甲乙つけるのは難しいです。レンズを通して、心のレンズで撮ると、また違ったものが見えてくると思います。
- 学生のころから、いろいろなことに関心を持って、いい世の中を作って残してほしいと思います。
- 写真にして残すことはとても重要です。対象物を見る時間と写真を見る時間が将来の皆さんのためになります。
- 立派な作品ばかりで全員に投票したいと思いました。
- 中学生、高校生がこのフォトコンテストを通して、環境に関心を持つことはとても良い機会だと思いました。みなさんの視点が鋭く、大人の私は恥ずかしくなりました。特に中学生のメッセージの009には感動と共感をしました。良いものを選び、長く使うことでごみは減り、人の心も環境も豊かになっていくのではないのでしょうか。
- 作品の中に、環境問題について考える良い機会だと思います・・・というメッセージがありました。1人でもこのように考える人が増えることはとてもステキなことですね。この催しの目指すところですね。
- いろいろ考えさせられる1コマがたくさんありました。



- 年々、作品のレベルが上がっていることに驚いています。また、学生の視点の多様さにも驚いています。



- 学生の皆さんも未来を見ているのだと思うと安心しました。
- 写真はどの作品も素敵でした。メッセージはひとつひとつ心に問いかけられているようでした。シャッターを切るとき、どんな気持ちで撮っていたのかがよくわかりました。
- 毎日の一瞬から、考え一つで地球のこと、環境のことを感じ取れるのだと教えられました。  
四六時中、考えるわけにはいかないけれど、1日のうちにほんの1分でもみなさんのように、ふと立ち止まって思うひと時が大人にも必要ですね。写真そのもののチカラ、どんな光で、どんな角度で撮るかをもう少し工夫したら、ますます素晴らしくなりそうです。
- 自分で作った組写真は「もっとこうすれば」と改めて他の方の展示作品を見て思いました。環境は、人によって着目点が違って面白いなと思います。来年も参加してみたいと思います。
- 年代関係なし、同じ場所に共存する人として、このような機会は大変重要だと思います。
- これからも自身の感性を大切に、色々な物や興味を持って生きてください。興味を持てば互いに理解できるので。とても素敵な作品となっていました。
- 日常の何気ない風景を写真として切り取ると、普段は気に留めていないような瞬間でも、深く考えたり、立ち止まって見続けることによって、心に残る景色となるのですね。一枚一枚が丁寧に撮られていて、とてもよかったです。

- もう少し、テーマに合った写真のセレクトに心がけましょう。今回は色彩が乏しかったと思います。
- たくさん撮った写真から選び出し、タイトル・メッセージを考える姿が思い描けます。さらに説得力のある「視」を養ってください。
- 組写は、複数枚の写真からどういう意図があるのだろうと試みてみると、下にある言葉で「そうか」と腑に落ちる感覚になりました。  
大人になるとごみとかを考えなくなるなあと実感しました。学生の時はこちらやって色んな角度から向き合ってきたはずなのに、忘れてしまっている、と。たくさん写真を見ること、学生の視点を知れることで自分自身にももう一度見直しをかけたいです。そう思わせてくれる展示でした。  
先が見えない未来のために、未来のことを考えて今を行動していくのは正直難しいけれど「意識」をしていくという選択をしていきたいと思います。
- 若いみなさんは知らないと思うけれど、昔、そう40年くらい前かな。  
空き缶、たばこの吸殻のポイ捨ては当たり前、日本の街々は汚かった。  
そんな時代が過ぎて、いまの若い人がこの問題に真剣に取り組んでいる。  
立て直し、日本。ぜひやり遂げてください。
- 今回のかんきょうフォトコンテストのように若い世代の人たちが環境問題に目を向ける素晴らしいチャンスをどんどん作っていったらと思う。  
娘の参加により、家族みんなで環境について改めて考え、私たちのできることから始めたいと思った。
- 組写のストーリー性が少しわかりにくかった。中学生のメッセージ部門は多種多様で見応えがあった。写真の技術がすぐれていて、驚いた。
- このような写真展は初めてです。70年あまりカメラと楽しんできた私・・・  
日本の未来を考え、もっともっと、このような作品展を全国で考えたいものです。
- 日々、何気なく目にしている風景から気づき、問題意識としてとらえている中高生の視点にハッとさせられた。純粹に感じ、自由に表現できる力を育ていけるプロジェクトは、子供たちの成長に大きな影響を与えていけると思います。教育現場へのもっと広い参加出展協力をお願いできればと思います。

- 海外からの住人にも分かり易く母国語表示を充実したいですね。
- このように「投票」という機会があると、ただ、眺めるだけではなく、見た人にとっても気づきが得られ、とても良いと自分が実際に参加してみても思いました。
- 人間一人一人ができることは小さいけれど、10人集まれば10倍に、100人なら100倍になります。ごみ一つを減らすことも一人ずつ意識していけば、大きな力になりますね。そのことを組写は教えてくれるのだと思います。
- 自分の学校の子以外の写真も見ることができて、どれも凄いなあと思いつつ、その技術を奪っていきたいと思いました。
- タイトルが工夫されていて想像するのが楽しかったです。
- 農業体験を通じて、手間と時間をかけないと成し得ることができないものがあるということが分かったのはとても素晴らしいと思います。便利が加速している時代に大切なメッセージだと感じました。
- 中高生のメッセージに目頭が熱くなり、うっかり、涙をこぼしそうになりました。  
素晴らしい感性を生かし、持続可能な地球を作ってってください。



2015年11月23日（祝・月）表彰式の様子

## 【 併設ブース 】

活動開始当初から選考会を立体的に楽しんでもらいたいとの想いで続けている選考会会場でのワークショップを行いました。

2015年度も、牛革を使ったワークショップや販売を通して「ものを大切にする  
こと」をテーマに、多くのみなさんに環境について考えてもらうきっかけ作り  
をしている、女子美術大学 環境活動団体「ボイシャキ」さんが「牛革でコイン  
ケースをつくろう！」というワークショップを行い、老若男女、たくさんの方  
に参加いただくことができました。



## 6. 出前講師



環境問題の解決の為には規制、技術革新、人の意識改革の3つが必要と言われています。しかし、その全てを学ぶにはいくら時間があっても足りず、また、専門的すぎると、かえって分かり難くなり「行動」の足枷になってしまいます。そうしたことから、身近な環境問題への関心や理解を深めていただけるように、分かりやすく、環境にやさしい生活を考えるきっかけとなる学びの活動です。2015年度は以下の通り、5回の機会を頂きました。

- (1) 2015年7月31日(金)  
横浜市立菊名小学校放課後キッズクラブ  
1年生から6年生  
【講座名】  
ゴミについてかんがえてみよう!!



- (2) 2015年8月4日(火)  
横浜市立下野庭小学校放課後キッズクラブ  
1年生から6年生  
【講座名】  
ゴミについてかんがえてみよう!!



- (3) 2015年10月1日(木)  
横浜市立城郷小学校 5年生  
【講座名】「食」を通して環境や  
国際理解を考えてみよう



- (4) 2015年10月6日(火)  
横浜市立東市が尾小学校 5年生  
【講座名】「食」を通して環境や  
国際理解を考えてみよう

- (5) 2016年2月14日(日)  
横浜市鶴見区江ヶ崎町内会  
【講座名】「食」を通して環境や国際理解を考えてみよう



## 7. かんきょう文化祭



携帯やスマホにカメラ機能が標準装備され、日常を切り取り、保存することが容易になったことから、「日常の中で気がついた課題を若者の視点で切り取ってほしい」「感じたことを自由に表現してほしい」と願い、2010年より「かんきょう組写(くみしゃ)フォトコンテスト」の企画を作り、環境啓発活動に取り組み始めました。

参加した中高生を始め、観客となった大人からは「普段見過ごしている日常のワンシーンが、写真によって切り取られることで考えさせられる。中高生の視点に気づかされる」という感想が多く寄せられ、評判は上々です。

一方で、作品の応募数が減り、2014年には前年度を下回る応募数となってしまいました。この状況に向き合い、2016年は中高生が参加したいと思うプログラムを作りあげる試行・チャレンジの年と位置づけて、活動する決意を致しました。

これまでの活動に「廃材ワークショップ&ものづくりコンテスト」「地産地消ツアー&試食会」「古着ファクトリー視察&ファッションショー」のプログラムを加えます。「ごみ」を題材に創造力を養う、実際に体感するプログラムを充実させ、中高生はもちろん、様々な年代の方々にとっても「ごみ」や「環境問題」を考えることはクリエイティブで面白いという感想を持ってもらえる機会を「かんきょう文化祭」と称して活動していきます。

詳細については2016年6月初旬発表予定です。みなさまには今後とも当法人の新たな取り組みにご指導、ご鞭撻、ならびにご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2016年度 かんきょう文化祭ロゴマーク ⇒



## 8. ご支援いただいたみなさま



### 【協賛 エコアクションサポーター】

エヌディーエル 株式会社 / 三洋装備 株式会社  
特定非営利活動法人 横浜市集団回収推進部会 / けやき株式会社  
有限会社 佐々木商店 / 有限会社 田村商工 / 有限会社 関東興産  
日本開発 有限会社 / 神奈川県古紙回収協同組合 / 藤嶺会 弥生苑  
有限会社 古紙共済会 / 横浜中華街パーキング協同組合 / 寺西容器店  
横浜アルコ株式会社 / 株式会社 国光 / 三ツ星商店  
株式会社 明基 / 株式会社 山愛 / 株式会社 丸喜商会

### 【協賛 エコライフサポーター】

秋山商店 / 小林商店 / 森川健二 / ナガワ / タツヤ / ヒロヤ  
中原茂 / かつては高校生 / レイコ

### 【協力】

- ◆ 横浜市温暖化対策統括本部 ヨコハマ・エコ・スクール  
YES(ヨコハマ・エコ・スクール)が展開する広報ツールに本活動の掲載および、  
出前講師事業ではヨコハマ・エコ・スクール(Y E S)脱温暖化行動講座開催補助  
制度の活用をさせていただきました。
- ◆ 東京総合写真専門学校  
リサイクル施設でエコワークショップのフォトレッスンをしてくださる在学生  
の紹介をさせていただきました。
- ◆ 女子美術大学 環境活動団体「ボイシャキ」  
かんきょう「組写」フォトコンテスト本選選考会でワークショップを開催して  
いただきました。

### 【その他】

- ◆ クラウドファンディング 展開公式サイト ~ 検索「かんきょう文化祭」  
<https://cf.yokohama.localgood.jp/project/kankyodesignproject>  
<敬称略>

一般社団法人 かんきょうデザインプロジェクト

〒231-0023 横浜市中区山下町 86-1-404

TEL / FAX 045-681-7554

Web <http://kankyo-design.org>

E-mail [info@kankyo-design.org](mailto:info@kankyo-design.org)